

第2章 子どもたちのスマホ・ネット使用に潜む危険性

1. いじめ

メール・SNS(ソーシャルネットワークサービス：LINE, Twitter, Facebook など)・コミュニティサイトを通じたいじめが増えています。LINE を使ったいじめでは、2014年には、隣の我孫子市で中1女子が自殺未遂、2013年には奈良県橿原市の中1女子が自殺、など、いたましい事件も起きています。スマホ以外にもご注意ください！奈良の例は、ネット接続できる携帯音楽プレーヤーでのLINEでした。

【スマホ・ネットのいじめパターン】

- SNS (LINE やツイッターなど) にて悪口を言われる
 - 「死ね」「キモイ」などの文字が画面いっぱいに並んだ文面を多数送りつけられる
 - 画像を勝手に貼り付けられる。ブログなどに誹謗中傷を交えた画像を投稿される
 - 個人情報の住所や電話番号などの連絡先を勝手に書き込まれる
 - 学校名などを利用した裏サイト(非公式のもの)を使って悪口を書かれる
 - アドレスを変えてその子だけ連絡しない(仲間はずし)
 - グループチャットの流れに合わせないと「既読スルー」や「空気が読めない」と批判
- (「子供をいじめから守るための方法 いじめ体験談 親子の実話」の「スマホいじめ特集」および、尾木直樹『脱・いじめ論』をもとに構成)

【二中の場合】

二中でも、LINEのトラブルが多いのです。

- 勝手に友人の写真を撮影し、無断でタイムラインに掲載
- 既読スルー、LINE外し、悪口などから、学校で友人関係が悪化
- LINEに入っていない子が少し仲間はずれになる、等

【ネットいじめの特徴】

- 「いつでも連絡がとれる」ため、24時間いじめから逃れることができなくなる
- 物理的に離れていても距離感が濃密になる
- いったん情報がアップされてしまうと急激に拡散してしまい、校内だけでなく不特定多数の人間の目にも触れ続ける
- 書き込みを完全に消すことはできない

【保護者の注意ポイント】

いじめを発見するチェックポイントとして、子どものスマホ・ネットの使い方に変化が生じていないか気をつけましょう。熱心に使っていた子が、身近に置かなくなったり、ほとんどチェックしなくなったりなどは要注意です。

対策として、見守りアプリを子どものスマホに入れることもできます。“filii”は、Android用の見守りアプリです(巻末参考情報参照)。柏市でも実証実験に使われました。



- アラート通知機能
(会話の中身は見えない)
- つながり分析
- アプリ利用時間の把握

2. 依存

「いつでも・どこでも・いつまでも」がスマホ・ネットの魔力です。

お子さんは、1日何時間スマホ・ネットやゲーム機を使っていますか？

家で勉強や食事のときも、スマホを手放さない子どもに嘆く保護者の声も。そんなときは「依存では？」と心配になりますね。

【依存による生活への影響】



・視力・体力の低下

画面から出るブルーライトにより、若者でも長時間の使用で「スマホ老眼」が起こる。運動の機会が減り、骨や筋肉の発達に影響。肥満の要因。

・生活リズムの乱れ

夜更かしによる睡眠不足から生活リズムが乱れ、集中力が低下したり、イライラしやすくなる。ブルーライトがメラトニン（睡眠に作用するホルモン）を抑制するため、睡眠が妨げられる。

・集中力・学力の低下

自転車や歩行中の使用で事故にあう。気になって勉強に集中できなくなる。

・禁断症状

使用できない場合に、不安やイライラがつのる。重症になると、パニックになって泣きわめいたり、家庭内暴力に発展したりする。

【成績との関係】

東北大学加齢医学研究所が仙台市の小中高生7万人を調査研究した結果から、勉強時間にかかわらず、スマホの使用時間が長い子どもほど、成績が下がっていること、とくにLINE等の使用が学力低下により強い影響力を持つことが判明しました（『2時間の学習効果が消える！やってはいけない脳の習慣—小中高生7万人の実証データによる衝撃レポート』より）。

【”時間どろぼう”されていますか？】

平日毎日2時間スマホ・ネットを使うと、1週間で10時間＝1年間で480時間。つまり、1日6時間授業があったとして、80日分、夏休み2回分の時間を費やしているのです。

【保護者の注意ポイント】

長時間の使用を防ぐには、①機器側で使用時間を設定する（第1章Q&A参照）、②ルールを決める、のが有効です。夜は保護者が「金庫に入れる」「充電器に鍵をかける」のもアリ。

依存になる背景には、「誰かとつながっていることで自分の価値を見出す」「仲間はずれにされたくない」という心理が働いています。

また、学校で居場所がなかったり、目標を見失っていたりする場合が。そんなときは、まず子どもの心の声に耳を傾ける必要があります。重症になると回復は難しくなるので、一人で悩まず、学校や相談窓口（第8章参照）に相談したいですね。



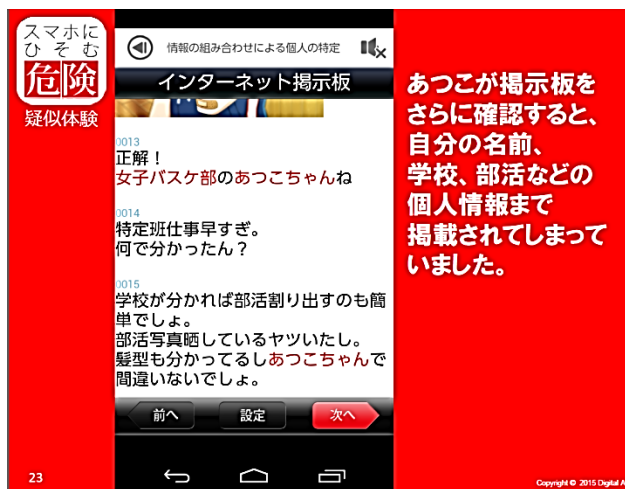
出典：
<http://item.rakuten.co.jp/safetyzone/sz09313726/>

3. 個人情報の悪用や犯罪

【「特定」の恐怖】

子供たちは自撮りした写真や動画を友達に送ったり、ネット上に発信していませんか？スマホ・ゲーム機（例、PlayStation® Vita）や携帯型音楽プレーヤー（例、iPod Touch）のカメラに位置情報が入っていると、それを解読する無料アプリなどで、簡単に自宅や居場所などが特定できてしまいます。

また、映っている制服などの情報を組み合わせ、個人情報を特定し、ネット上の掲示板にそれを掲載したり（例・右図参照）、最悪の場合ストーカーの対象とする人たちがいます。



出典：デジタルアーツ スマホに潜む危険 疑似体験 アプリ ダウンロード用学習資料。人名は架空です。

<http://www.daj.jp/cs/filtering/materials/>

【新たな出会い系】

LINE、Facebook メッセンジャー、カカオトークなどの無料メッセージアプリの ID 交換用の掲示板やアプリは、事実上の出会い系サイトとなっているといわれています（デジタルアーツ）。そこで知り合いになった人と実際に会って、わいせつ行為の被害にあっている女子中高生がいます。

【ネット上で知り合った人と会っての被害】

ネット上のサイトで知り合った男とゲームなどの話題で通信していましたが、実際に会うとお小遣いをあげるなどといわれ、わいせつ行為をされた男子中学生や、携帯ゲーム機のネット接続から知り合った「女子高生」（22歳の男がなりすましていた）に、裸の画像を要求されて、送ってしまった10歳の小学生がいます。

【リベンジポルノ】

スマホで撮った自分の裸や下着姿の画像・動画を、恋人や、ネットで知り合った相手に求められて SNS やメールで送ると、トラブルが起こったときなどに、腹いせとしてその画像をネット上に無断で投稿されたり、拡散される事件が起こっています。

「リベンジポルノ防止法」が2014年12月から施行され、2015年には1,143件もの相談が寄せられています。

【基本無料ゲームでの高額請求】

最初は無料でも、ゲーム中のアイテムが有料なものもあります。アプリ購入のためのアカウントに、保護者のクレジットカードが紐付けされると、パスワードが推測されたら簡単に有料アイテムを購入できます。また、悪意で課金に誘導するようなアプリもあります。ゲームに夢中になると、その結果高額請求が届くことになります。



出典：デジタルアーツ 前図に同じ

【保護者の注意ポイント】

＜写真・動画＞

- 安易に写真を投稿しない。公開を限定したり、後で削除しても、スクリーンショットで相手に保存されれば、再現なく拡散できる。一旦ネット上に拡散されれば、完全に削除することは不可能。
- スマホなどについているカメラでは、位置情報をオフに設定する。
- 自分や他人の個人情報が特定できるようなものを写さない、載せない。
- 下着姿や裸の写真は撮らない、撮らせない、送らせない。

＜ネットでのつながり＞

- ネットでは、知らない人とつながらない。
- 「なりすまし」は簡単にできるので、もし知り合っても絶対に会わない。
- フィルタリングをして、有害・違法なサイトにアクセスできないようにする。
(コミュニティサイトに関わる犯罪被害にあった95%の子どもがフィルタリングなし)

＜高額請求＞

- ゲームはどこまでが無料で、どこからが有料か事前に確認する。
- 子どもが課金しないように、スマホのアカウントと保護者のクレジットカードは紐付けにしない。
- もし紐付けする場合は、推測されにくいパスワードにする。
- ダウンロードするアプリは保護者に確認させる。
- 信頼できるゲーム以外はフィルタリングで禁止する。

STOP! ネット犯罪
—ネットの世界は危険と隣り合わせ!—

1 わー、この子となんか気が合いそうー!!
コミュニティサイト
ドライブに
れこうよ!
チャット
したい!
あそぼ!

CHECK! 相手は女性になりました
男性かもしれません。

2 えーどうしようー
送って
くれたし、
断るのも
悪いかな...

CHECK! プライベートな画像を要求
してくることもあります。

3 ととと
送って
くれた
わー
どう!
今度、
買おうよ

4 会って
くれないなら
僕の画像を
学校に
ばらまくぞ!

CHECK! コミュニティサイトで知り合った
他人を安易に信用することは危険です。

**平成26年に出会い系サイト・コミュニティサイトを利用して、
犯罪被害にあった子供は..... 1,573人**

警察庁

出典：警察庁 *「コミュニティサイト」とは、SNS や無料通話アプリなど。

<子どもと一緒にやってみよう！疑似体験アプリ>

- ・i-フィルター 「スマホに潜む危険 疑似体験アプリ」

<http://www.daj.jp/cs/sp/app/>

(デジタルアーツ社の上記サイトにある QR コードから、無料の疑似体験アプリがダウンロードできる。)

無料

スマホにひそむ危険

疑似体験アプリ

無料ダウンロード

ANDROID アプリ Google play

App Store

ええっ!? これってスマホじゃないの?

大学生・高校生による新シナリオ追加!



イラスト：文芸部 三谷航優さん

4. 進学・就職・結婚への悪影響

いま、子どもたちはインターネットの「視聴者」であるばかりでなく、「配信者」となりつつあります。近年、青少年が SNS で自分のやった「飲酒」や「万引き」、悪ふざけなどを写真にとって投稿し、それが炎上を引き起こす事件が多くありました。

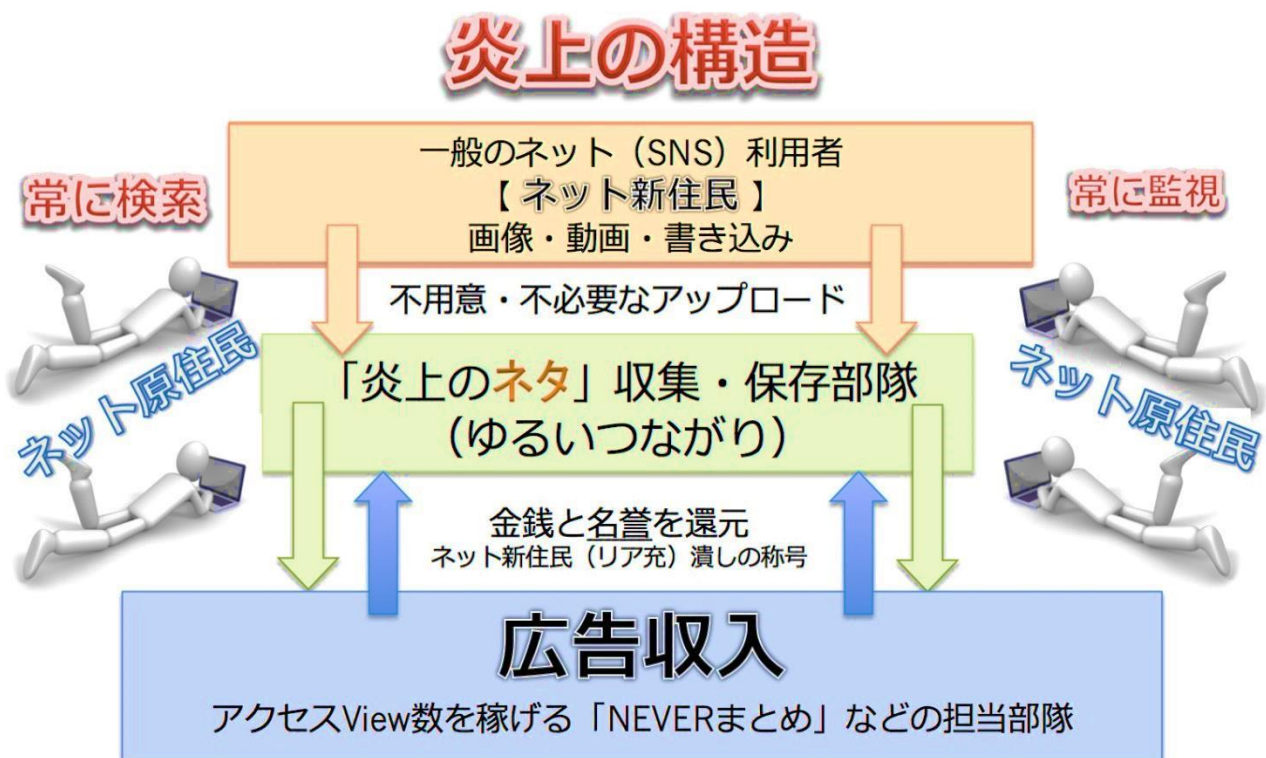
【ネット上で「炎上」を引き起こした事件の例】

- ・ 小売店で「万引きなう」とツイート
- ・ 地下鉄の線路に侵入して「ピース」し、写真をツイート
- ・ バイト先の店で、タレントがサインしたレシートの写真を店員がツイート
- ・ バイト先の店で、冷蔵庫に自分が入った写真をツイート、など(飯島、2016)

【SNSが炎上するからくり】

投稿した人は、「誰も大して見ていない」と軽く考えていたかもしれませんが、しかし、投稿は SNS で友人から友人へと転送され広まっていきます。また、“ネット原住民”とも言えるような人たちが、常に検索・監視し、不用意な投稿を収集、保存します（彼らはアクセスビュー数を稼げるサイトなどに提供し、収入を得ているようです）。

そして投稿者をバッシング、嘲笑する「炎上」が始まり、実名などの個人情報も短時間に特定され、ネットの掲示板等へ書き込まれます。



出典：飯島、2016

【「一瞬で公開⇨一生の後悔」】

ネット上で拡散した情報は、一旦削除したとしても、スクリーンショットで保存・共有されて、消すことはできません。何年たっても探し出すことができます。

学校や企業は、入試や採用試験のとき、応募者の書き込みについて調査するケースが増えています。推薦取り消しにより進学できなくなる、就職先の内定取り消し、結婚話の破談、友人関係の崩壊、など、子どもの一生に取り返しのつかない傷が残ることになります。



出典：グリー株式会社、2014

【保護者の注意ポイント】

子どもたちと一緒に、以下を確認したいですね。

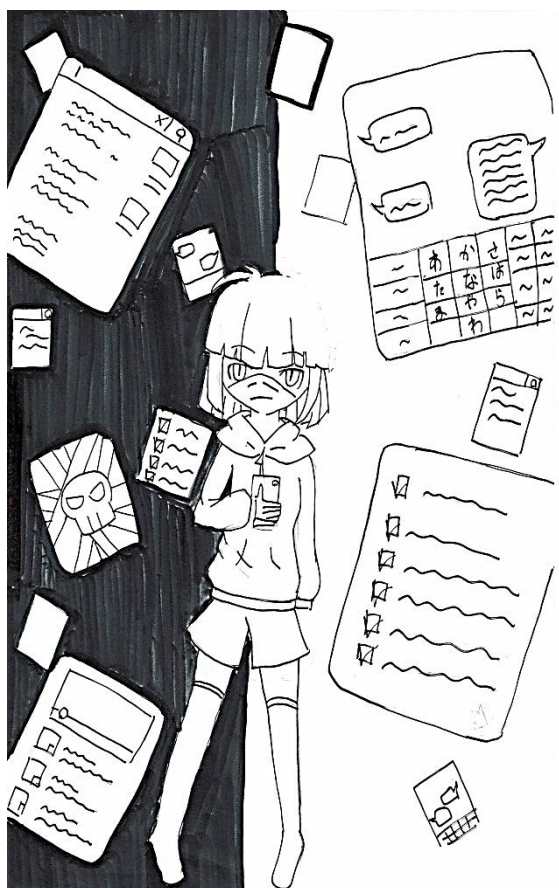
- 日常生活でやってはいけないことは、ネット上でも絶対にやってはいけない。
- 自宅の玄関に貼れない情報は、インターネットには載せない。
- 「匿名だからわからない」「仲のいい友達しか見てない」と軽く考えない。
- 個人情報や、他人のプライバシーにかかわる情報・写真を不用意に投稿しない。

加害者にも被害者にもなる



炎上し、さらし者になり、
人生を変えられ被害者にもなる

出典：グリー株式会社、2014



イラスト：文芸部 平山結衣さん